

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第36号 2022.11.20 発行

今年の作業も残りわずか

前回の通信発行からずいぶんと日が過ぎてしまいました。縄文住居5号棟もそろそろ完成直近となりましたが、冬の到来も近づき縄文人たちの休眠期間も差し迫っています。年内作業でどこまで完成に近づけるかまだ分かりませんが、12月第一週でいったん目途をつけ、また3月頃を目安に作業を再開して完成させたいと思っています。また12月3日は恒例の忘年会を準備していますので、今年作業に参加した人も、残念ながらあまり参加できなかった人も大勢集まっていたらと思います。

❖ 防水シートを掛ける直前のすがた



柱が3本なので屋根をどのような形状にするか、いろいろなアイデアが出され、なかなか意見が一致しません。模型を作ったり検討を重ねたりし、作り直したりもしましたが、最終的には、側面は平面、前と後ろは曲面と今までにない斬新な？スタイルの縄文住居になりました。

木の枠組みも同じですが、防水シートや土を被せてしまうとこのような美しい姿が見られなくなってしまふのがとてももったいない気がします。完成した結果だけを見るのではなく、内部に隠されたその過程が重要であることを実際に体験したように思います。



ジョンさんの家の土蔵
の壁土で隙間を埋める

職人たちのワザも
ずいぶん向上しました



☆ 佐藤さんちのサツマイモで焼き芋パーティー

今年は、柿が豊作のようですが、サツマイモも『大きくなり過ぎた』といろいろなところからいただきます。佐藤さんに持ってきていただいたサツマイモを焼き芋にして美味しくいただきました。



☆ 山梨県立美術館 縄文展

特別企画第4弾、11月5日は佐野さんに説明していただきながらの縄文展見学です。

当日の参加者は、いつもの作業日とは大きく違って30名ほどに。これには企画した側もビックリ！プロローグの部屋でも展示物一つ一つ、写真一枚一枚に佐野さんの丁寧な説明で、『12時までに終わる？』と心配がよぎります。佐野さんが説明している場所には、我々以外の一般の見学者も寄ってきて説明に聞き入るため、更に人垣が増えます。美術館の担当者は、『一個所に立ち止まらないように』と注意に来ますが、やはりだれもが佐野さんの説明を聞きたいのでいつまでたっても集団は小さくはなりません。



以前、一度この縄文展を見に行っていましたがいまだに、何も説明が無いものを見ていたのと、佐野さんの説明を聞きながら見るのでは大違い。『そうだったの』『そういうこと』・・・の連続で、やはり素人には、背景や歴史的経緯が分からないと理解できない事の多いことが良く分かります。

今回は、佐野さんの説明があったので展示物一点一点の詳しい内容が良く分かりましたが、折角の文化財をもっと多くの人や子供たちに理解してもらうためには、『美術館側でももう少しキャプションを充実させたら』と思ったのは私だけでしょうか。

☆ 新潟からのお客様

新潟にある縄文公園でもボランティアによる縄文住居建設の計画があるようで、バスで見学に来られました。梅之木遺跡と同様に土を被せる工法とのことで、我々の作業が他の地域でも参考にされるとは嬉しい限りです。



❖ 詳細は別途メールでお知らせしますが、12月3日(土)忘年会の予定です。

今回も金井農園から豊富な食材を入手して後藤シェフによる『具だくさんな汁』が用意されるようです。寒さが身に染みる季節かと思いますが、暖かな汁で身体も心も温まりたいと思います。